

和

a2200834 渡辺成美

背景と目的

現在において日本の食文化は多様性を極め、西洋料理、中華料理をはじめとし、世界中の食があふれています。それと共に漆器類も食生活の中で使用される機会が減少しました。核家族化も進み大家族で暮らす光景もあまり見られなくなり、世代を越えて伝統文化が伝えられる機会も減ってきています。私の育った地域では運動会、お墓参りやお祝い事に重箱などの漆器類が使われていましたが、今では都市部を中心に漆器を使うことはとても少なくなってきました。古来お花見やお月見など日本の四季やお祝い事には漆器を用いり、漆器を囲みながら人とのコミュニケーションを図っていました。工夫された漆器を囲み、今一度日本の伝統や文化の重要性を見つめ直してほしいと思い、この提重を研究テーマにしました。

デザインについて

2人用の弁当箱が2つあり、間に酒箱を挟んで4人用にもなります。使用に応じて持ち手が変わるようになっています。

使用する素材・・・木、紙管、漆
行う加飾・・・絵漆、螺鈿、蒔絵

制作工程

- | | | |
|--------------------|--------------------------|---------------|
| 1. 寸法確認のための製図 | ～ 酒箱 ～ (18) | |
| 2. スチレンボードで模型作成 | 5. 錆付け (木口) | |
| 3. 木地作り | 6. 塗り (スグロメ・ロイロ塗り・木地呂塗り) | |
| 4. 木地固め | 7. 加飾 | ～ 杯 ～ (4) |
| ～ 弁当箱 ～ (22) | 8. 艶出し | 内側 (4) |
| 5. 布着せ | ～ 徳利 ～ (16) | 5. 蒔地 (2回)・固め |
| 6. 目摺り | 5. 布着せ (紙管の上下・2回) | 6. 追い錆 |
| 7. 蒔地 (3回)・固め | 6. 目摺り (2回) | 7. 塗り (ロイロ塗り) |
| 8. 追い錆 | 7. 追い錆 | 8. 加飾 |
| 9. 塗り (スグロメ・ロイロ塗り) | 8. 塗り (ロイロ塗り) | 9. 艶出し |
| 10. 加飾 | 9. 加飾 | 外側 |
| 11. 艶出し | ～ 箸 ～ (8) | 5. 錆付け (木口) |
| ～ 持ち手 ～ (5) | 5. 蒔地 | 6. 塗り (木地呂塗り) |
| 5. 塗り (木地呂) | 6. 追い錆 | 7. 艶出し |
| 6. 艶出し | 7. 塗り (ロイロ塗り) | |
| | 8. 加飾 | |



スチレンボード模型



木地



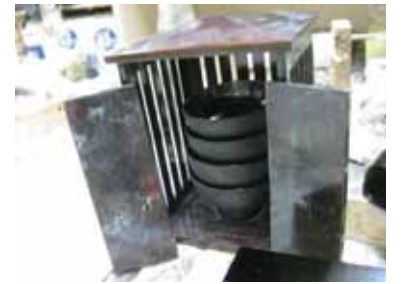
中塗り



木地固め (73 パーツ)



弁当箱



杯と入れ物

考察と感想

2年間漆を習った集大成として、今回私が作品制作に選んだのが「提重」でした。どんな提重にするか考えているうちに、2～4人でもそれ以上の人数でも使用できるものにし、そこにお酒、徳利、杯、箸、皿、持ち上げる際には持ち手をつけるという形になりました。日々の作業も一工程ができればよいほうで研ぎの際は朝から夜まで終わらないということが多かったです。確認のために模型での製図をしましたが、実際に作ってみないと分からない部分が多く、木地の構造を制作しながら検討することになりました。少しの長さが違うだけで全てのパーツをやり直さなければいけなかったため、木地が仕上がるまでに時間がかかりました。その分、面白い形を提案できたと思います。苦労した点は蒔地という工程において、蒔地が厚過ぎて箱に収まらなくなったときです。研いでも研いでも平らにならず、箱にも収まらなかったのが焦りました。酒箱は全部のパーツが授業でも作ったことのない形ばかりで、塗りの工程に時間がかかりました。持ち手に使われている木目はとてもすばらしく、その木目を活かしたものにしたいと思い透明度の高い木地呂漆を塗りました。全体的に毎日時間に追われ、集中しないと一日の目標にすら届かなかったのが苦悩でした。実際に言うのと作るのではまったく違うということをもっと知らされました。最初の段階で製図や模型ができていたからこそ、しっかりと続けて作業ができたのではないかと思います。卒業研究をしたことで精神的に強くなれたと思います。漆という綺麗さを知ることができました。これから短大で学んだ2年間を今後も活かしていきたいです。漆に出会えてよかったです。